

【別紙様式 I】 令和6年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立厚木第二小 学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 川口 千秋

学校教育目標		学校経営の方針		
○主体的に学ぶ力 ○豊かな人間性 ○たくましく生きる心身を持った児童の育成		認めあい、学びあい、高めあう学校づくり ・安心・安全で楽しく元気な学校づくり ・やりがいをもって協働できる教職員 ・地域とともにある学校、社会に開かれた教育課程の実現		
今年度の重点目標				
○子どもたち一人一人の「分からない」を大切に授業改善 ○認めあい、学びあい、高めあう集団作り ・自己肯定感の向上 ○主体的な活動の活性化 ・安全教育の推進 ○基本的な生活習慣の確立 ・健康・体力の自己管理				
評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
GIGAスクール端末を利用した家庭学習の推進	1・3	各学年の実態に応じて、定期的に宿題を出す。	GIGAスクール端末を活用した家庭学習が定着し始めた。課題としては、宿題の意義を考えながら、タブレット端末の生かし方を模索していく。	まず、家庭学習の意義について学校としての方針を出し、家庭学習へつなげていく。
学力における本校児童の実態(学習状況や昨年度からの課題)について把握する。	1	学力向上プロジェクトシートや学状結果分析を活用し、計画的に学習支援を行う。	職員会議等での発信を細かく行ったことで、PDCAサイクルを意識した学習支援計画を立てることができた。	プロジェクトシートを活用して把握した児童の実態から、年間を見通した「目指す児童像」を明確にし、学習支援を進めていく。
支援体制の充実	2	ケース会議・いじめ防止対策委員会の実施。(今年度は招集していない)	支援を必要とする児童に対し、コーディネーターを中心に、職員で連携を図り、よりよい解決方法を導き出すことができた。	支援を必要とする児童に対し、学校全体で理解を深める。(学年会・児童指導全体会・職員会議)
安心できる環境づくりをする。	2	所属感がもてる学級づくり。「ほっとルーム」の活用。	落ち着いて授業に参加できる学級が多かった。一方なじめない児童もいた。(登校しぶり) 校内教育支援教室「ほっとルーム」登校をしている児童のニーズに合った学習支援をすることができた。	より良い学級づくりについて学び取り組む。また、インクルーシブ教育について更に理解を深める。 「ほっとルーム」のより良い運営方法を、職員で考えていく。
自分を大切に、相手を認めるために、進んで挨拶をする子に育てる。	2・3	あいさつ運動を実施。	生活委員会を主体に、4, 5, 6年生であいさつを促すことで、あいさつの輪が広がった。	引き続き次年度もあいさつ運動を、継続していく。
児童主体の「ドリームまつり」を開催する。	1・2・3	児童会行事である「ドリームまつり」の企画・運営。	児童会が主体となり、クラスへ発信することができた。スローガンや約束を決めたり、各委員会での役割を決めた。また、各クラスでは、話し合いを通し、創意工夫豊かな店を出し、迎える側でもお客としても楽しむことができた。話し合うことの積み重ねが成果を上げている。	今年度に引き続き、集団意識や達成感を味わうことができる、児童が主体となる活動にしていける。また、折り合いのつけ方も学ばせたい。
“いきいきタイム”を通して命を大切にしようとする気持ちを育てる。	2・3	毎月17日に行う“いきいきタイム”を利用した安全教育。	交通安全や防犯、災害から身を守る訓練の実施を通して命を守ることへの意識づけができた。	今年度に引き続き“いきいきタイム”を継続していく。

自ら健康に生活しようとする意欲が育つように指導し、基本的な生活習慣の確立をめざす。	2	保健だよりや日々の声掛け。はみがきカレンダーの実施。	習い事や塾など家庭の事情もあり、難しい面もあるが、保健だより等で基本的な生活習慣について発信できた。はみがきカレンダーでは、はみがきに限らず自らの健康目標と振り返りを行い、健康に過ごす意識を高めることができた。	家庭の事情もあり、難しい面もあるが、今後も根気強く発信し、家庭と連携していく。
運動に対する興味・関心を持たせ、体力向上に努める。	2	縄跳び週間の実施。朝休みでの外遊びの実施。	縄跳び週間では、全校児童が休み時間に縄跳びを実施し体力向上に努めることができた。コロナ禍でなくなっていた朝休みでの外遊びを復活し、朝から体を動かす習慣ができた。	今後も、運動する機会を提供し、体力向上に努める。
食に対する意識を高め、より良い食習慣の確立を目指す。	2	パクパク週間の実施(年3回)。	年3回のパクパク週間で、給食委員会で食事のマナーの動画を作成し、各クラスで指導を行ったり、アンケートをとったりするなどし、食に対する意識が高められた。しかし、まだ給食の残食が多く、引き続き取組を行っていく。	教科と絡め、食に興味・関心をもたせたり、声掛けの工夫をしたりするなどして、より良い食習慣の確立を目指していきたい。
今年度の学校関係者評価委員会からの意見				
・学級活動を中心に児童の折り合いの付け方を身に付けさせてほしい。・食に対する興味をもたせ、食に対する感謝の気持ちをもてるように食育の充実を図ることができると良い。				
今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針				
・今年度の成果と課題を踏まえ、教職員一同で確認し見直したグランドデザインをもとに地域・保護者とも連携しながらより楽しい学校となるよう取組を進めていく。				